

こ そう ふ 古 箏 譜 (重要文化財)

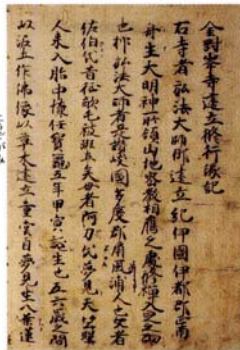
平安時代末期写 1 軸

縦 27 cm 横 767 cm

今月は花見月。古来より花の宴にはことの調べが響く。「こと」という言葉は古くは弦楽器の総称名として使われた。中でも、六弦が張られた「やまと（大和・倭）ごと」は日本古来から伝わる和琴。七弦が張られた「きん（琴）のこと」は中国宮廷内の祭祀にまつわる楽器とされ奈良時代、日本に伝わった。現在広く知られている十三弦の「そう（箏）のこと」も同じく奈良時代に中国より伝来したもの。その形状は龍の象徴とされ、部分の名称には「龍頭」「龍尾」など龍にまつわる呼び名が多く用いられる。主に平安時代から

中世にかけて雅楽の中で用いられた「楽箏」と、江戸時代に初期に派生した地歌箏曲に用いられる「俗箏」に区別されるが基本構造に変わりはない。掲出書は雅楽の箏譜。平安時代末期写。同時代の著名な箏譜『仁智要録』などの記譜法とは異なるが、書写年代が平安末まで遡るものは稀少な史料となる。音高を十三本の弦名（一、二、三……九、十、斗、為、中）で示し、それに左手法、拍子などの奏法を示す補助記号が加えられている。巻頭を欠くため目録部分から始まり「万歳楽」以下二十八曲の箏譜を列示する。

紙背には同時代写、弘法大師空海の一代理記である『金剛峯寺建立修業縁記』を存す。



本書は楮紙を用いた卷子本一卷。鬱金色地に寿字と松葉文模様織り成された金欄表紙。「楽亭文庫」の印記があり、巻末には「東寺（以下破損）」とある。空海に縁ある東寺に伝承されたと見られ、後に楽翁松平定信旧蔵となった。昭和三十九年重要文化財指定。

（天理図書館 末代美保）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
 ただし3月19日、23日～31日は休み
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）